

---

# 友情と好敵手

神童サーガ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

友情と好敵手

### 【NZコード】

N4412F

### 【作者名】

神童サーガ

### 【あらすじ】

人斬り抜刀斎（女）と新選組（男）の友情？オリキャラです。

(前書き)

戦いシーンがあつます

初めまして、私は緋桜 ひおう 灯 あかり

職業は、人斬り抜刀斎。

裏での呼び方は、黒死蝶といいます。

黒死蝶の由来は、黒い髪、黒い瞳、黒い着物、黒いキツネのお面を着け、華麗に舞うからと言われるけど、詳しくは分りません。ついでに今は、明治時代です。

「灯！」

今日も仕事を終えて帰ろうとしたとき、背後から聞き慣れた声がした。

「颯太・・・」

彼の名前は、柊 ひいらぎ 颯太 そうた

あの有名な新選組の平隊員なのだ。

二人は、敵同士。だけど何よりも硬い絆があった。

「今は夜だから・・・御用だ」

「だね・・・あと、何刻かで友人なんだけどね

昼間は一緒に団子を食べる親友同士だが、今は夜なので、敵同士だ。

皮肉な運命だが、変える事は不可能。

「さつさと捕まえさせて貰うよ?」

「捕まつたら一緒に飯食えねーし」

灯の言葉に、くつ、と顔を歪ませる颯太。

「友人だからこそ・・・本氣で戦える」

「つ・・・友人だからこそ・・・俺が捕まえる」

一人の緊張のピークを達した時、キーンと鉄の音が、真夜中の路地裏に響いた。

「つ・・・」

「負けるわけには、いかないんだ・・・幕府を変えるためにも」

「抜刀斎のいる意味が無いんだぞーー!」

刀の柄に、力を込める。ギシッと音を立てる。

「意味が無くても・・・私は、この刀を捨てる」とは出来ない！！」

「なぜ幸せな暮らしを選ばない！？一生キニは、裏で生き続けなきやいけないんだ！！」

例え、心が揺らいでも力を緩めない。

「何を言われても、私が抜刀斎として生きてる限り、宿命からは逃れられない！！」

「ずっと一人で・・・自分の手を血で染めても・・・苦しんでいくのか？」

何も言い返すことが出来なかつた。

「自由に生きる人生は・・・嫌なのか？」

「颶太だつて・・・新選組に縛られて・・・裏で偉い奴が悪いことして・・・誰かが止めなきやダメなんだよ」

ボソッと言つた言葉に、颶太は呆然とした。

灯は、颯太の刀を振り払つて、颯太のお腹を自分の右足で蹴つた。  
颯太は、グツと後ろに反り返つた。

何とか踏ん張つて灯を見たが、いなくなつてた。

「灯・・・

ただ、いなくなつた彼女の後を見つめるしか出来なかつた。

「また・・・血で濡れた・・・」

桶に水を張つて、自分の顔を見る灯。

悔しげに眉を寄せた。どうしようも無い出来事なのに。

「・・・新たな時代のためには、仕方が無い・・・でも・・・颯太は力タキなのに・・・仲間達の」

新選組と人斬り抜刀斎は、所詮相容れぬ中なのだ。

「久し振りに・・・団子屋のオッチャンに会いに行こうか」

先ほどとは、打つて変わつて女の子らしい着物を着てる。  
そして、町を探索してる。

田星の店に入る。

「灯ちゃん！ 久し振りだな」

「すみません。最近来てなくて・・・」

「てつきつ病氣かと思つたよ」

席に勝手に座つた。オジサンは、いつも通りに団子と酒を持って  
来る。

酒と甘い物。変に思われるが、いつもの灯のスタイルなのだ。

「・・・懐かしいな」

お猪口に並々に注がれた酒を、グイッと呑む。

「相変わらず自棄酒か？」

「違つ・・・久し振りだからだ

背後から聞こえる声に驚きはせずに、普通に話してゐる。

「オッチャン・・・酒！！」

「颯太だつて酒じやんか」

灯の目の前に座つたのは、颯太だつた。オジサンは、酒を持って来た。

「（）は、酒呑む場所じやねーんだ」

「だつて置いてんじやん」

「嬢ちゃんが呑むからだ」

他にも呑む奴がいるじやん、と灯が言つと、オジサンは自分の頭を叩いて、こりや一本取られた、と言つた。

「乾杯」

「ん・・・」

オジサンがいなくなつたのを見てから、二人は、猪口を合わせた。

「最近どうだ？」

「なにが？」

二人は、昼間の時は、絶対に裏の話はしない。  
人目に付くから。

「颯太だつて、見合いあつたんだろ？」

「・・・ああ、相手の父親が黒死蝶に殺された」

「！？」

微かに表情を変えた灯。だけど、酒を呑む手は止めなかつた。

「そつか・・・黒死蝶に殺られるのは、悪い事してる奴等だしね

「うん・・・調べたら賄賂だつて」

賄賂か・・・と言つた。

灯は、詳しくは聞いて無かつたらしい。

「取り止め？」

「……うん。相手も行方を眩ましたようだし。居辛いもんね」

ハアーと溜め息をしている颯太に、気になつたことを聞いた。

「まさか、気に入つてたとか？」

「いや……何が理由でも殺しはダメだよなつて……」

颯太の言葉に詰まる灯。目を閉じて考え方をしている。

「俺としては、止めて欲しいけど」

「……そうね」

ホントは止めたいけど、気持ちは、そう簡単では無い。

「俺は、灯と友人でいられるのは嬉しいけど……いつか、俺の手で……つ！？」

段々と、夜の話をしだした颯太に、叫んで名前を呼んだ。

颯太は、ハツとして口を閉じた。

「・・・例え何があつても、私のいるべき場所は「」や颯太なんだ」

「・・・うん」

「それに人斬りは、止めても死んでも変わらないよ」

「変える事の出来ないなら、自分は、これからどうすれば良いんだ  
うう？」

「どんな灯でも、俺は受け止めるから」

「・・・颯太」

表は、友情ゴッコ。  
裏は、人斬りゴッコ。

どうしたら、この宴は終わるのだろう。この愛憎劇は終わるのだ  
ろう。友情の目処は付かないのか。  
いつか、親友が捕獲者になってしまつ口まで・・・。

(後書き)

書いてて、少し「ぬるい」劍心を思い出しました。また読み直そ  
うかな

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4412f/>

---

友情と好敵手

2010年10月28日03時04分発行